

築百二十年 古民家

『聴福庵』

ミマモルジュメールマガジン

〈特別企画 聴福庵特集〉



「なつかしいみらい」を  
子どもたちに譲るために

私たち株式会社カグヤは、2016年4月より、この築120年の古民家を『聴福庵(ききふくあん)』と名付け、自分たちの手で甦生を手がけてきました。

私たちは「古民家」を**再生**しているのではなく**「暮らし」の甦生**に取り組んでいます。

今は簡単便利な時代で、お金さえあればほとんどのことが出来る世の中です。しかし、この**「便利さ」**によって、私たちにとって大切な**「暮らし」**が失われてきています。

それは「自然に逆らわない循環型の暮らし」のことであり、日本古来から伝承されてきた「自然と調和する生き方」「風土に根を張る暮らし」とも言えます。

『聴福庵』は、子どもたちに**「ぬくもり」**を通して、

日本人の道徳を伝承する実践道場です。

「古民家」には、**「日本人の智慧」**が凝縮し、**「日本の風土美」**、**「循環」**など先人の「生き方」や「息遣い」が残っています。

『聴福庵』では、

・『聴福庵』での体験を通して、教えずして教えていきます。

・夜の闇のぬくもり、火をさわる安心感を体験し、

古来の神事を伝承します。

・息を吹き、火を熾して竈でご飯を炊き、囲炉裏で団欒をし、食べる暮らしを伝承します。



2017年6月 完熟して甘い香りを放つ梅

日本には、八百万神と呼ばれるように  
たくさんのお神様がいます。

『聴福庵』にも、たくさんのお神様をお祀りし、  
日々の暮らしを見守って頂いています。

家に住むのではなく、家に住まわせて  
頂いている感謝を玄関で合掌します。



# 【聴福庵】に祀っている神様

愛宕権現 (あたごこんげん)  
火防の神様



烏枢沙摩明王 (うすさまみょうおう)  
弁財天 (べんざいてん)  
トイレの神様

天神様 (てんじんさま)  
学問の神様



弥都波能売神 (みづはのめのみこと)  
霞神 (おかみのかみ)  
水の神様、龍神様



大国主大神 (おおくにぬしのおおかみ)  
農・医の神様



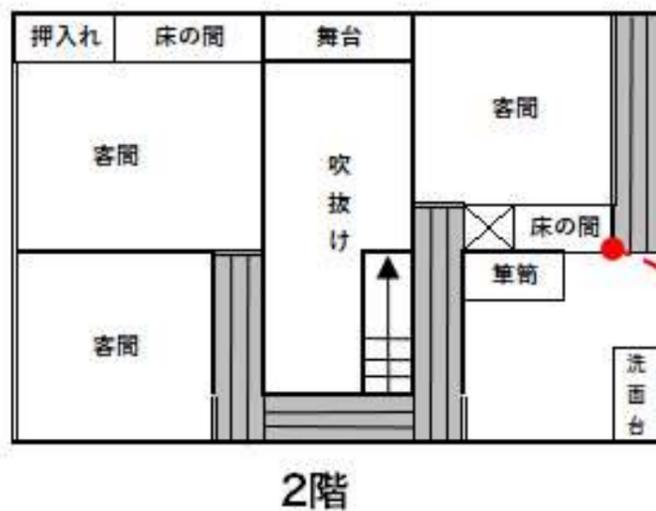
跋陀婆羅菩薩 (ばったばらぼさつ)  
お風呂の神様



鞍馬大権現 (くらまだいこんげん)  
生命の神様



三宝荒神 (さんぼうこうじん)  
火の神様



天神様 (てんじんさま)  
学問の神様



1階居間 古材の天井板を床板として使用

解体しかかっていた古民家から古材を譲り受け8回柿渋で塗り重ねていきました。磨き続けることで木材が本来持つ木目も浮き立ってきます。



120年前 アメリカ製アラジンストーブ

中の芯を交換し、磨き上げていくと今でも部屋の中を暖めてくれます。アメリカ製ですが、『聴福庵』と同時期の一品で、妙に古民家にも馴染んでいます。冬には冬の道具、季節に沿った昔ながらの道具が活躍しています。



家の傾き修復 2016年9月21日

大工さんたちによって120年の重みで傾いた古民家の柱を立て直す作業が実施されました。現代の方法では傾きを直すことが出来ず、昔ながらの『鉄砲ジャッキ』という道具を用いて人力で作業を行い、床下に束を足して5, 6cmほど柱の土台を上げることに成功。伝承されてきた先祖たちの知恵と技術により、ついに家が水平になりました。



台所

職人さんに教わりながら行った漆喰塗り。200年前の古民家で使われていた煤竹を磨き直し、張り巡らせた煤竹天井。福岡農園の土500キロで作ったおくどさん。台所には、クルー皆で携わったものも多く、食事がなくても、その思い出に花が咲きます。



古いものの手入れを通して、「磨き・馴染む」という教育の本質。いにしへの道具を学び、ものづくりの心、ものづくりの原点、ものづくりの回訓を伝承します。

『聴福庵』には、昔ながらの古い道具がたくさんあります。今、『聴福庵』にある道具たちは、かつては別の主人に使われていましたが、いつしか使われなくなり、埃を被り、錆び、部屋の奥隅に追いやられたり、中には古民家解体と同時に破棄寸前に『聴福庵』へ辿り着いたものもあります。竈で炊いたご飯、縁側から見る四季折々の風景、『聴福庵』での醍醐味ではありますが、その大半は掃除です。「掃いて・拭いて・磨いて」何よりも磨かれているのは、自分自身だと気づき、手入れをすることで愛着が湧きます。新しい道具も便利ですが、不便だから、大変だからこそ助け合う、そんな日本人の智慧が詰まっているように思います。

# 【聴福庵にある道具の数々】

聴福庵には、江戸、明治、大正時代の道具が多くあります。その中の一部をご紹介します。

時代を超えて、今なお聴福庵で活躍している道具たちです。

## 暖房・照明器具類

### 江戸

1603~1868



行灯



行灯皿

## 食器・調理器具類



釜の蓋



和鉄自在鉤

### 明治

1868~1912



アラジnstove



檜炬燵



2連竈



鋳物付き風呂

## 家具類



小物入れ

## 建具



水屋箆笥



建具

## その他



400年前の版木で彫られた龍紋



200年前の煤竹

### 大正

1912~1926



豆ランプ



炭ストーブ



ピアグラス



建具



春日石灯籠

### 昭和

1926~1989



木製火鉢



天然木お椀



洋服箆笥



ゆらゆらガラス



サルスベリの杵

### 平成

1989~



LED非常用ライト



スクリーン・プロジェクター

日本の家は、「日本の文化」の伝承場です。  
「教育」とは「伝承」であり、  
日本の家こそ「教育の場」です。

学校で習った「ことわざ」も『聴福庵』での暮らしや、  
職人さんの働く姿を目の前で見ても、  
その意味を実体験として学ぶことがあります。

日本の家は、まさに学びの宝庫です。

2018年2月 雪がしんと降る長崎街道

### 【井の中の蛙大海を知らず】

狭い見識に捉われて、他に広い世界がある  
ことを知らないで、自分の住んでいること  
が全てだと思いこんでいる人のこと。  
小さな井戸の中に住む蛙は、大きな海があ  
ることを知らないという意から、物の見方  
や考えが狭い場合に用いられる。

### 【塩梅】

とても具合のよいこと、物事の加減がほど  
よいこと。

### 【小手先】

手の先でするような、ちょっとした技能や  
才覚。軽いものとして皮肉を込めて用いら  
れることが多い。



井の中の蛙大海を知らず



塩梅



小手先

### 【壁に耳あり障子に目あり】

こっそり話しているつもりでも、誰かが壁に耳をあてて聞いているかもしれないし、障子に穴をあけて覗き見しているかもしれないことから、隠し事を話すときは注意すべきだということ。



壁に耳あり障子に目あり

### 【同じ釜の飯を食う】

「同じ釜」という意味は、生活する場が同じで、一つの釜で炊いたご飯を分け合っている食べる意味で、他人同士が家族のように毎日を一緒に過ごし、苦しいことや楽しいことを共に感じて過ごすことで、とても親しい間からのこと。



同じ釜の飯を食う

### 【うなぎ登り】

うなぎは急流であっても水の少ない所であっても、登っていく。うなぎの体はゆるゆるしていて、捕まえようとしてもさらに上に登ってしまふこと。



うなぎ登り

### 【親孝行と火の用心は先にする方が良い】

親孝行は親が生きている間にするもので、火の用心は火事になる前にしておく。何事も起きてしまってからでは遅い(後の祭り)という意味。



親孝行と火の用心は先にする方が良い

### 【箆(たが)を締める】

ゆるんだ規律や心持ちを引き締めること。



箆(たが)を締める

### 【出藍の誉れ】

藍草で染めた布は藍草よりも鮮やかな青色となるが、その関係を弟子と師匠にあてはめて、弟子が師匠の学識や技術を越えるということ。



出藍の誉れ